

つねかけ 常陰 明乃さん

(27) 安曇野市豊科高家

泌尿器科の医師は男性が多く、女性の割合は全体の2、3%にとどまる。一方で扱う病気は、年齢を重ねることによる筋肉の衰えなどで子宮などの臓器が体外に出てしまい「骨盤臓器脱」や一部の「尿失禁」など、女性

特有のものも多い。女性医師ならではの姿勢で、同性の患者の治療に当たっている。

兵庫県出身で3月で松本を離れることが決

まつたが、信州大学で勤務した2年間には、さまざまな経験をした。診察すると「病

院に行くのが嫌だつた。診てもらったのが女医さんでよかつた」と話す女性の患者がいた。「3、4年間も我慢して、初めてここに

まつたが、信州大学（松本市）と安曇野赤十字病院（安曇野市）で勤務した2年間には、さまざまな経験をした。診察すると「病院に行くのが嫌だつた。診てもらったのが女医さんでよかつた」と話す女性の患者がいた。「3、4年間も我慢して、初めてここに

女性患者の心もケア



「来た」と話す人や、「こんな症状は私だけでしょか」と尋ねる人もいた。手術が決まり、家族にも説明したいと話をもちかけた患者に「ここに来ていることは誰にも話していない」と打ち明けられたケースもあった。

患部を見せることになるとかもしれないと想像して恥ずかしくなり、つらい症状を抱えていても病院から足が遠のいてしまう「隠れ

4月からは静岡県で働く。松本での経験を生かして、新天地でも研さんを積む考えだ。

(小坂 功)

た患者”も多いのだろう。そういう悩みを抱く男性もいるのだろうが、女性は特に悩みが深いと感じている。

高知大学の医学部に入り、専門知識を得るようになってからも、最初のうちは泌尿器科への関心はあまりなかった。臨床実習で泌尿器科の診療の現場に入つて「女医は少ないのに、患者には女性もたくさんいる」と思った。「自分にとつても患者に対しても、私が女性であることが武器になる」と考へ、5年生で泌尿器科を専攻することに決めた。